

2-2 まちづくり基本構想のさらなる推進に向けた取組

■ JR京都線茨木・高槻間における鉄道高架化勉強会

(1) 概要

目的	J R 京都線茨木・高槻間における交通及びまちづくりの課題解決に向け、鉄道高架化とまちづくりの検討を行う
検討範囲	J R 京都線の（仮称）総持寺駅から芥川までの約 3.4 km
構成員	J R 西日本、茨木市及び高槻市の部長級、（オブザーバー）大阪府



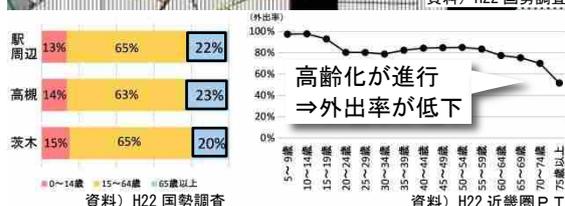
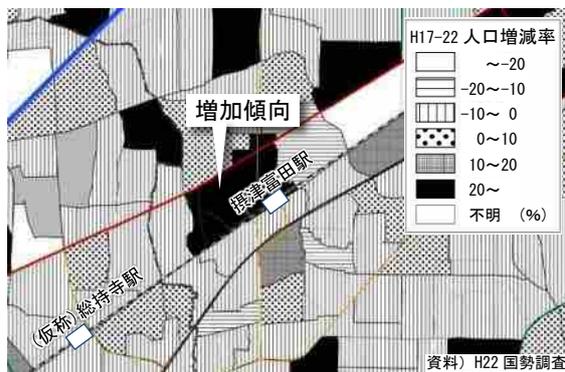
(2) 取組状況

年月日	主な経過
平成 27 年 11 月 2 日	[第 1 回] 勉強会の開催目的と課題の共有
平成 28 年 1 月 12 日	[第 2 回] 茨木・高槻間の高架化のメリット、高架化を取り巻く環境
2 月 9 日	[第 3 回] 今後の進め方
7 月 28 日	[第 4 回] 高架化及び周辺まちづくりの検討
12 月 19 日	[第 5 回] 高架化の検討状況（中間報告）、まちづくりの方向性

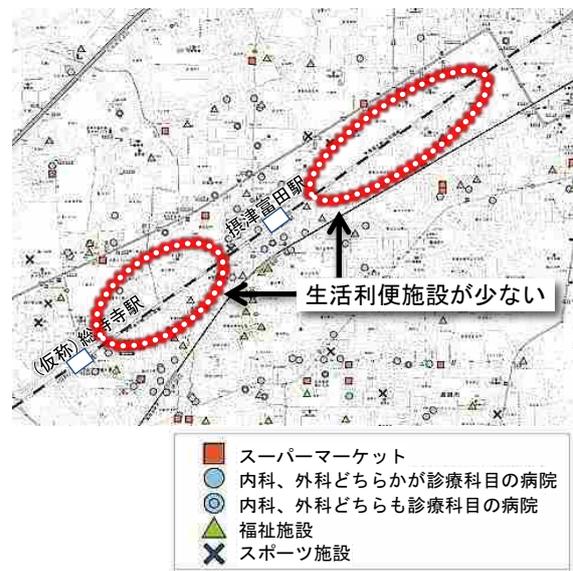
(3) 高架化とまちづくりの考え方

① 茨木・高槻間のまちづくり課題

課題 1 人口減少・高齢化への対応

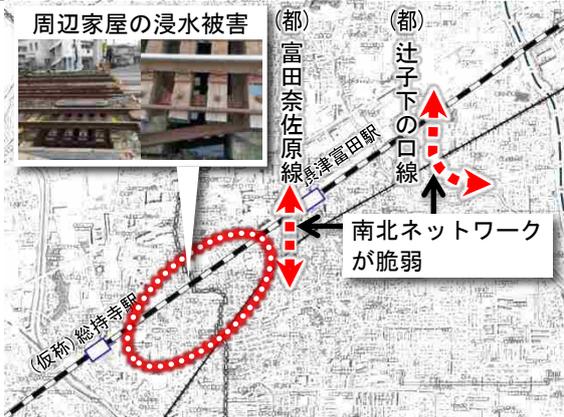


人口増減分布、高齢化率、年齢階層別外出率

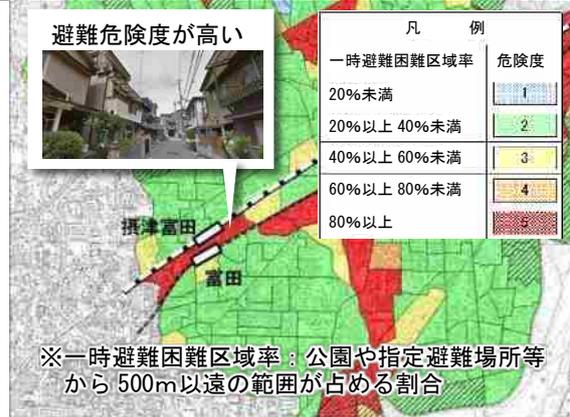


生活利便施設の立地状況

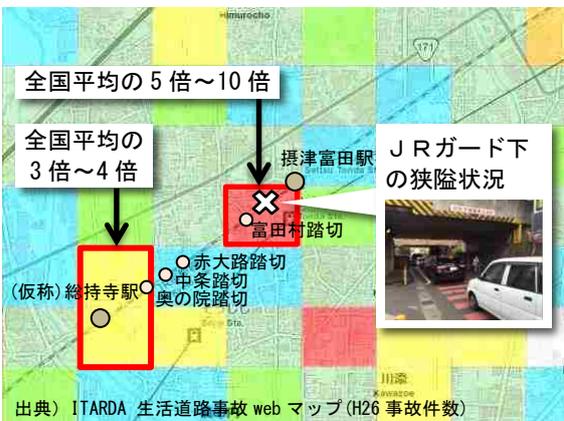
課題2 南北市街地の分断解消と都市機能の高度化



都市基盤の現況



まちの災害に対する脆弱性

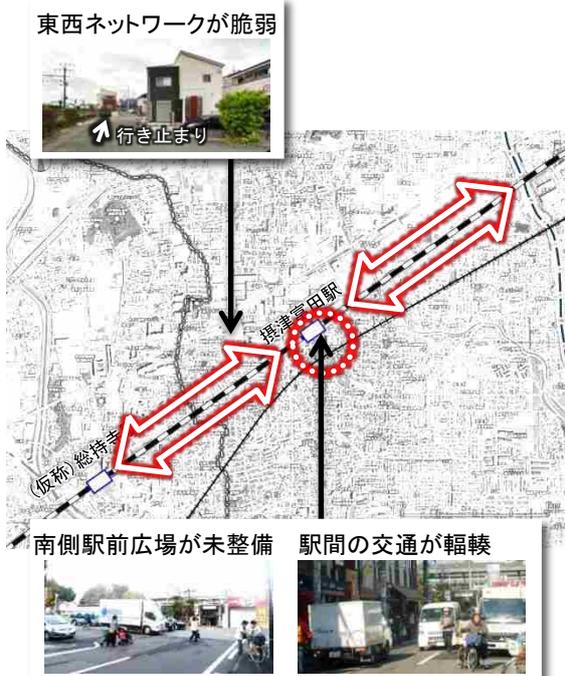


生活道路の事故件数



J R 京 都 線 における踏切の現況

課題3 摂津富田駅の交通結節機能の向上



駅周辺の交通状況

課題4 駅周辺の地域資源の有効活用



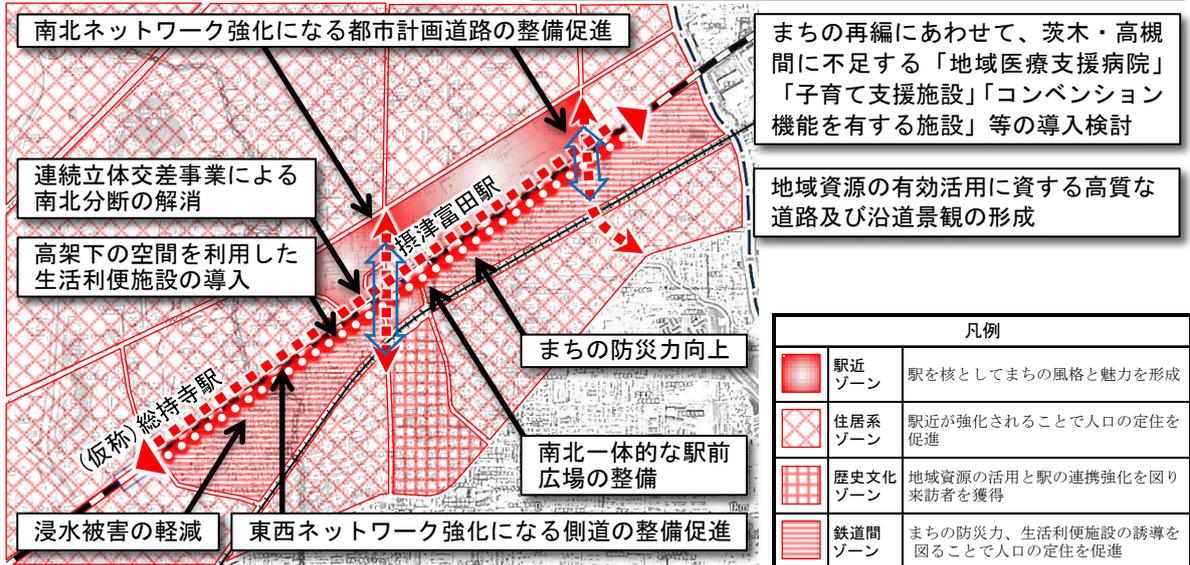
地域資源の立地状況

②まちづくりの方向性

茨木・高槻間のまちづくり課題

人口減少・高齢化への対応
南北市街地の分断解消と都市機能の高度化
摂津富田駅の交通結節機能の向上
駅周辺の地域資源の有効活用

- 歩いて暮らせるまちづくり
- 茨木・高槻間の都市間連携による市街地活性化
- 大阪圏と京都圏の中央に位置する強みを活用



③鉄道と道路の立体交差手法とその効果

手 法	ケース1 単独立体交差	ケース2 連続立体交差 (北側関連側道)	ケース3 連続立体交差 (南側関連側道)
整備イメージ			
まちづくりの方向性	歩いて暮らせるまちづくり	踏切除却による歩行者安全性は向上、東西ネットワークは脆弱 (△)	東西及び南北ネットワークが向上、歩行者の上下移動負担が解消 (○)
	茨木・高槻間の市街地活性化	南北分断の抜本的な解消せず (△)	高架下空間の有効利用で生活利便施設等を誘致、まちの再編に寄与 (◎)
	大阪圏と京都圏の強みを活用	都市施設を誘導する空間が無いため、現状との大きな変化がない (×)	都市施設を誘導する空間の創出(高架下、駅南、連鎖的) (○)

(4) 今後の進め方

まちづくりの方向性を実現するには、JR京都線の連続立体交差事業が最適な手法

鉄道高架化勉強会による情報の共有と検討

- ① 鉄道高架化の効果検証
- ② 都市間連携に資するまちづくりの深度化

JR西日本、茨木市及び大阪府と連携し、引き続き協議調整